

"The Adventures of Huckleberry Finn" No.1

"It makes me all over trembly and feverish to be so close to freedom."

Mark Twain

「ハックルベリー・フィンの冒険」No.1

「自由の世界のこんな近くまで来ていると思うと、体じゅうが震え、熱くなる」

マーク・トウェイン

「トム・ソーヤの冒険」の続編ともいべき「ハックルベリー・フィンの冒険」の中で主人公に次ぐ主要人物である 黒人奴隷のジムが、自由州(free states: 南北戦争以前に奴隷制度を禁止した州)に入る入口となる ケアロに近づいたときに興奮して言った言葉です。



ハックルベリー(以後ハック)は、家なしで飲んだくれの父親を持つ浮浪児ですが、悪党が隠した金貨をトムと二人で見つけて金持ちになり(前回の「トム・ソーヤの冒険」参照)、ダグラス未亡人とその妹のミス・ワトソンに引き取られて、きちんとした教育を受けることになりました。お金はサッチャー判事が管理して、それぞれに決めて与えることになっていました。ハックが固苦しいダグラス家の生活に馴染めないでいるところへ父親が現れ、判事から金をせびろうとして息子を小屋に閉じ込めてしまいます。ハックはそれに耐え切れず、土台の丸太を切るなどして逃げる機会を狙っていました。

ある日、その晩は父が帰らないことがわかったので、逃亡を決行することにしました。ハックは以前父と釣りに行ったときに見つけて隠しておいたカヌーに 食料や生活用品を運び込み、小屋には自分が殺されたように見せかけるため、ブタを殺して血をしたたらせました。そうして近くの島の森に隠れて、次の日自分の捜索が行われるのを見ていました。

すると驚いたことに、その森にはダグラス夫人の奴隷のジムがいたのです。ジムは、ミス・ワトソンが夫人にジムを売ろうと持ちかけているのを聞き、その足で逃げ出したところ、ハックが殺されたという噂を聞いて悲しんでいたのです。ところが噂はやがて、ハックを殺したのは、ジムかハックの父親らしいということになり、ジムは逃亡奴隷として、300ドルの賞金つきで追われる身分になりました。こうしてハックとジムは川を流れてきた筏とカヌーに乗って、ミシシッピー川を下る勇壮な冒険旅行を始めるのです。

川をしばらく下ると、オハイオ川と合流するケアロの町に出ます。そうしたら筏を売り払って蒸気船に乗り、オハイオ川を上って自由州に入る計画でした。自由州に入ればジムは安全だからです。

しかし、ミシシッピー川は所により川幅が1マイル以上もある上に、深さも流れも場所によってまったく異なる危険な川です。ある日猛烈な濃霧に見舞われて、一寸先も見えなくなりました。こんなときは筏を動かすことはできないので、川岸につないで霧の晴れるのを待ちます。しかし、綱が切れて筏のジムとカヌーのハックは 別々に急流に流されてしまいました。必死に声を掛け合いながら霧の中をさまよひ、霧が晴れてからやっとのことで巡り合えました。目指すケアロはもう間近のはずです。ジムはだんだん喜びを抑え切れなくなり、大きな声でおしゃべりを続けました。

川下りといっても、昼間はジムが見つかるといけないので川岸の木陰に隠れ、航行はもっぱら夜でした。ところが、いくら目をこらして見えても、ケアロらしい町は見えません。二人はだんだん不安になりました。夜が明けてみると、岸の近くには澄んだオハイオ川の水が流れ、その向こうには泥水のミシシッピー川の水が流れていることがわかりました。あの霧の中で流されているうちに、ケアロは通り過ぎてしまったのです。

(次回に続く)